

&lt;第70回調査&gt;

2015年03月30日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2015年03月17日(火)13:00~2015年03月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は927件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

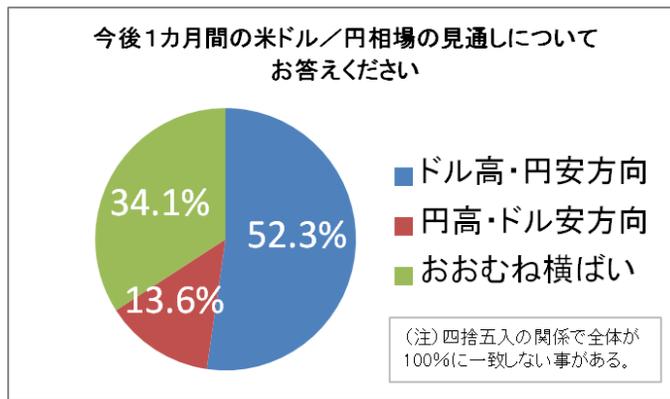
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第70回調査結果略報：ドル先高感とユーロ先安観が根強い】

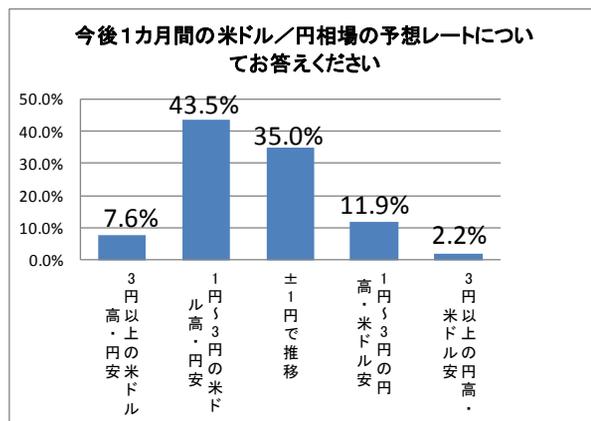
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が52.3%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は13.6%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+38.7%ポイントとなり、DIは前月(30.7%ポイント)からプラス幅を拡大した。調査期間中の米ドル/円相場は、米国の利上げ時期が市場予想(6月利上げ見通しが多めだった)よりも遅くなる、また利上げペースもゆっくりとしたものになる、との見方が広がり、ドル売りが強まった。直後の動きが一服した後もドルが弱めの地合いが続いており、早々にドルを改めて買う勢いが戻ってくる気配はない。ただ、米国が利上げを睨んでいる状況には変わりはなく、1カ月以内に再度上を目指すとするFX投資家が多いようだ。 ※過去の米ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が43.5%と最も多く、「±1円で推移」が35.0%、「1円～3円の円高・米ドル安」が11.9%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は7.6%、「3円以上の円高・ドル安」は2.2%に留まった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果に示されたドル強気・円弱気の見通しと整合的である。なお、前回結果とヒストグラムの形状にほとんど変化はないが、「1円～3円の円高・米ドル安(前回14.0%)」が減少し、「±1円で推移(前回32.1%)」が増加しており、下値についてはさほど大きくないとみるFX投資家が増加したと見て取れる。



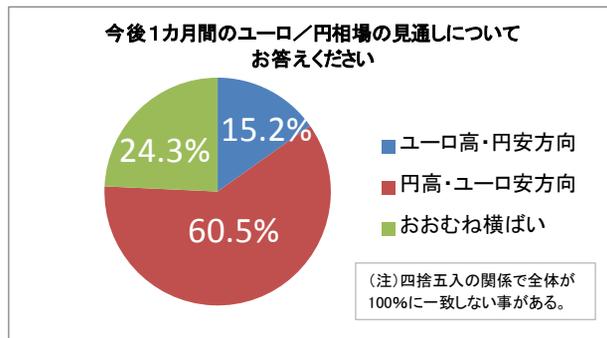
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

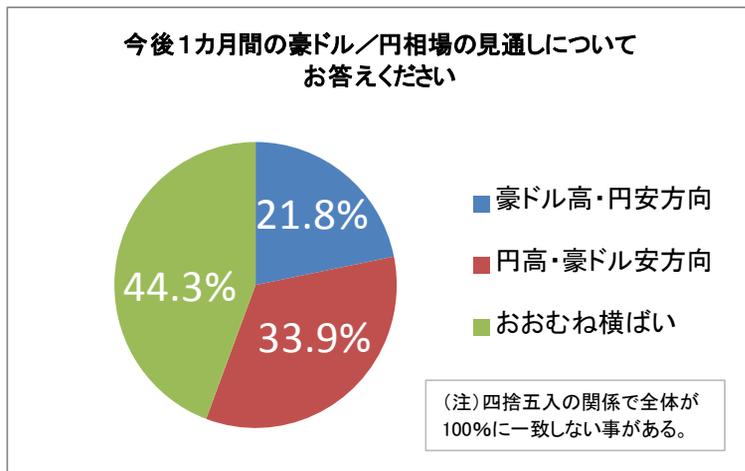
「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が15.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が60.5%であった。この結果、**ユーロ円予想DIは-45.3%ポイント**と、前月(-27.8%ポイント)からマイナス幅を拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、128円台前半から131円台後半での乱高下となった。米ドル中心の相場だったことからユーロ/円はドル/円とユーロ/ドルの狭間で方向感が出なかった。ただ、欧州は量的緩和を開始したばかりの上、ギリシャ問題の先行き不安も残っており、ユーロ売りが今後も強まると見ているFX投資家はかなり多いようだ。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が21.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は33.9%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは-12.1%ポイント**」と、調査開始以来初の4か月連続のマイナスDIとなった。調査期間中の豪ドル/円は、ユーロ/円と同様にドル/円と豪ドル/円の狭間で主体性ない往來を繰り返したが、最終的には豪ドル/米ドルの上昇の影響を強めに受けて94円台半ばまで上昇した。ただ、引き続き豪中銀(RBA)の追加利下げについての思惑が底流する中で豪ドルの先安観は根強く、DIの結果となって現れたものと見る。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

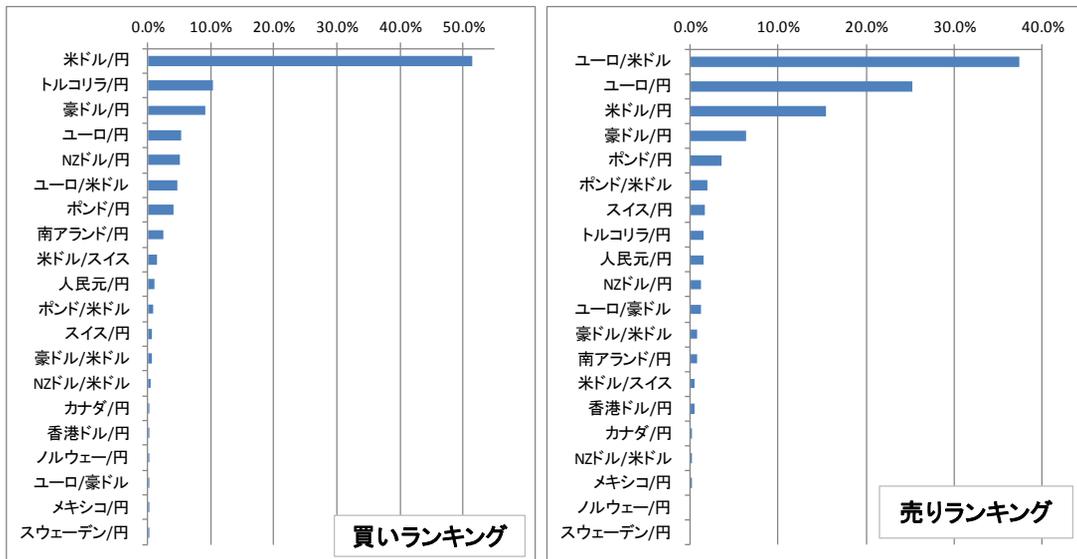


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

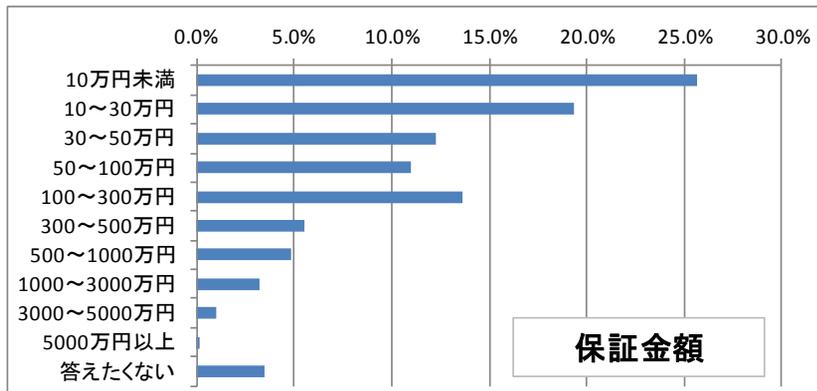
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、米ドル/円が51.3%と、前月(48.7%)に続き他を圧倒した。以下、2位トルコリラ/円(10.2%)、3位豪ドル/円(9.2%)、4位ユーロ/円(5.4%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/米ドル(37.3%)、2位ユーロ/円(25.2%)、3位米ドル/円(15.4%)、4位豪ドル/円(6.4%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が29カ月連続で1位となり、最長記録の更新が続いている。引き続き、2位以下のトルコリラ/円、豪ドル/円といった高金利通貨のクロス円を圧倒的に引き離して、人気が一極集中化している。一方で、「売り」で注目の通貨については前回に続き、ユーロ/米ドルとユーロ/円が2強となっており、ユーロ売り意欲の強い状態が続いている。また、「買い」で注目の1位が米ドル/円、かつ「売り」で注目の1位がユーロ/米ドルである点から、米ドルの先高期待が強い様子が見受けられる。唯一、利上げ時期が射程圏内に入っている米ドルを買い、その他の金融緩和状態が続いており、しばらく継続するであろう国の通貨を特に売ろうとする地合いはまだ続く、と見るFX投資家が多いためと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

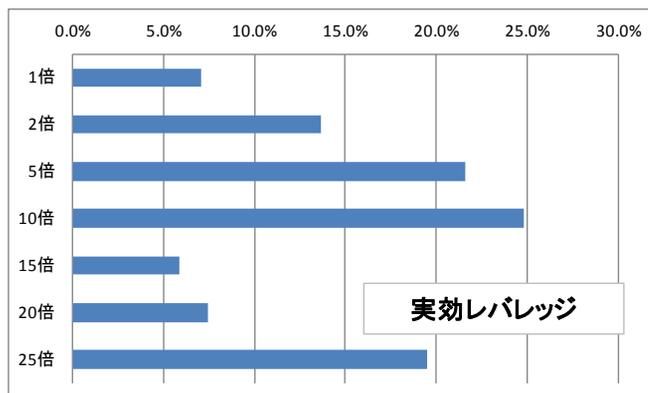
### 問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.7%と最も多く、以下「10～30万円(19.3%)」、「100～300万円(13.6%)」、「30～50万円(12.3%)」、「50～100万円(11.0%)」、と続いた。上位2つに回答が圧倒的に集中している様子に変わりはない。しかし、「100～300万円」の回答割合が前回からやや低下し、「50～100万円(前回14.3%)」の順位が「30～35万円(前回9.8%)」と入れ替わった。50万円以下と回答した割合が増えた様子が窺える。しかし一方で、300万円以上の回答割合が14.7%へ上昇(前回11.0%)している。米ドルが乱高下する中でポジションを絞った小額投資に向かう割合が増えた一方、値幅が出たことで保証金を積み増して積極的に取引しようとする動きも同時に発生した模様だ。



### 問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が24.8%と最も多く、「5倍」が21.6%と続いた。以下「25倍」が19.5%、「2倍」が13.7%、「20倍」が7.4%となった。10倍以下の合算割合は66.5%と、これまでの7割前後からやや少なくなった。また、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジは11.1倍と、10倍前後が続いたこれまでよりやや上ぶれた形だ。FX投資家の実効レバレッジは本来なら、相場見通しや相場展開といった要因には左右されにくく、これまでの平均実効レバレッジ10倍前後での推移が続いていたが、調査期間中のドルの大きな乱高下によって、やや変化が生じた可能性がある。この傾向に継続性があるのか、来月の調査が待たれる。

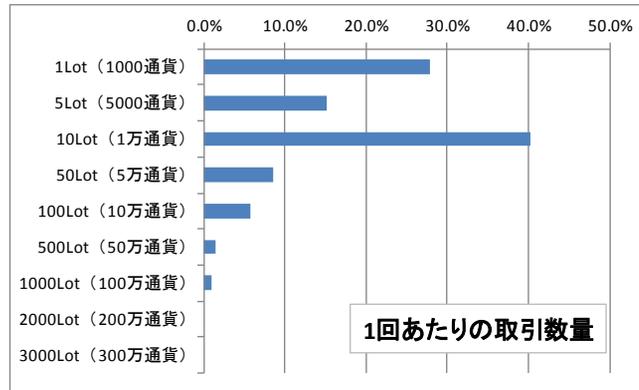


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

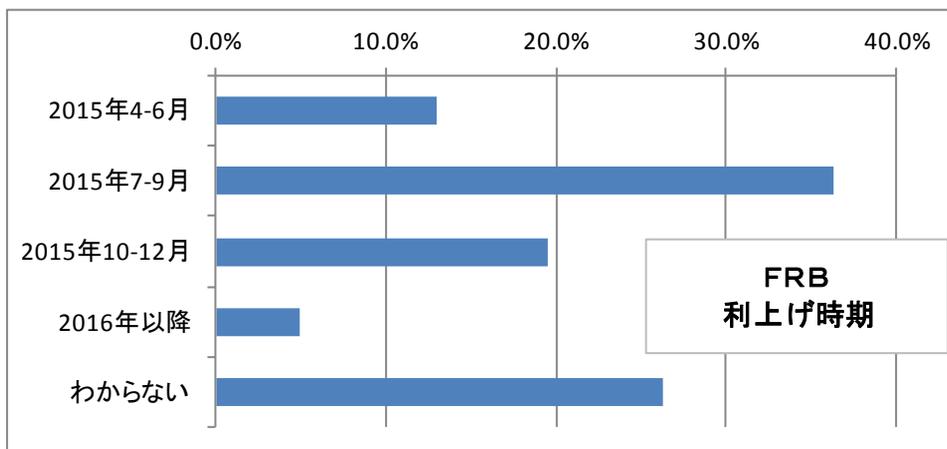
**問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)**

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (10000通貨)」と答えた割合が40.2%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が27.9%、「5Lot(5000通貨)」が15.1%、「50Lot(5万通貨)」が8.5%、「100Lot(10万通貨)」が5.8%と続いた。今回も、10Lot(1万通貨)以下の合算割合が83.2%に上っており、比較的小さな数量での取引が多数を占めている事がわかる。一部の大口投資家による売買だけでなく、小口取引の積み重なりがFX店頭取引の活況ぶりに大きく寄与している状態は継続していると考えられる。



**問9: 米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)**

「米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2015年7-9月」と答えた割合が36.2%と最も多く、以下「2015年10-12月」が19.5%、「2015年4-6月」が12.9%、「2016年以降」が5.0%と続いた。市場関係者の見方は2015年4-6月と2015年7-9月で割れている形となっているが、FX投資家はそうした市場関係者の見立てよりも遅めの利上げを予想しているようだ。利上げを見越してドル高を読むFX投資家が多いものの、利上げ開始時期自体はやや遅めを想定している向きが多いのは、3月18日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 関連イベントを、市場関係者よりも重く受け止めたことが背景にありそうだ。

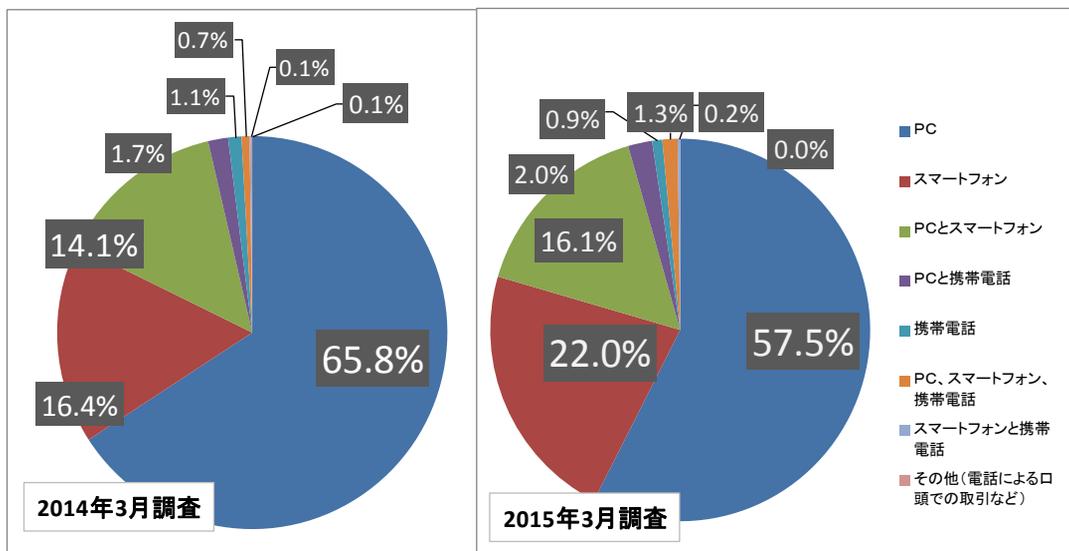


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問10:FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。  
(ひとつだけ)**

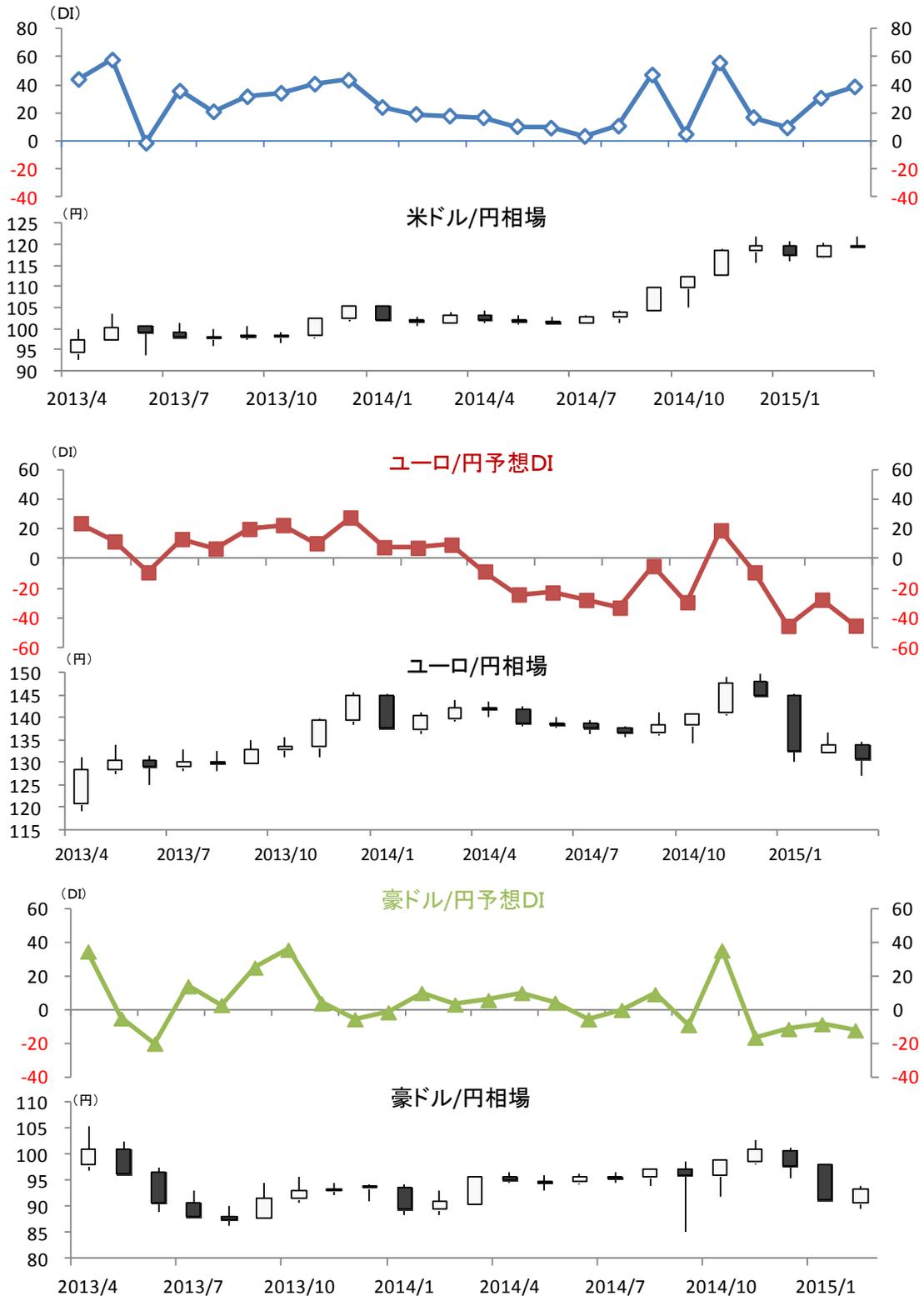
今月のもうひとつの特別質問項目として「FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「PC」が57.5%と最も多く、以下、「スマートフォン(22.0%)」、「PCとスマートフォン(16.1%)」と続いた。圧倒的にPCの利用が多く、FX取引をする際は腰を据えてやる、という投資家の多さを窺わせた。また、携帯端末としては、スマートフォンの利用が多いものの、スマートフォンのみで取引する層は22.0%に留まっている。スマートフォン用のアプリでは、注文をすることは出来ても、チャート分析や情報面ではPCに及ばない点が多い事がこうした結果に結びついている可能性がある。もっとも、2014年3月に行った調査(第58回)に比べると、「PC(前回65.8%)」の回答割合が減少し、「スマートフォン(前回16.4%)」「PCとスマートフォン(14.1%)」の割合が増加しており、1年前に比べてスマートフォンを利用するFX投資家が増えていることが分かる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本  
 レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針  
 や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告な  
 しに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総  
 研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第70回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2013年	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9	
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0	
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1	
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2	
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0	
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3	
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0	
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0	
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5	
	2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
		2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
		3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
4月		41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9	
5月		33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2	
6月		31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4	
7月		27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6	
8月		32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1	
9月		64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5	
10月		39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0	
11月		70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6	
12月		48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5	
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3	
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4	
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com